



あなたの、いちばんであるために。

2014. 7～9月期 No. 027

やましん

中小企業景況レポート

山梨信用金庫 総合企画部
〒400-0032 甲府市中央 1-12-36
TEL 055-225-0213
ホームページアドレス
<http://www.yamasin.jp/>

2014. 10.15 発行

■ 調査要領 ■

1. 調査対象
当金庫営業エリア内の取引先中小企業 120社
2. 調査時期・期間
調査時期：2014年9月1日～5日
調査期間：今期実績 2014年7月～9月
来期見通し 2014年10月～12月
3. 調査方法
当金庫職員による訪問聞き取り調査
4. 分析方法
DIを中心に分析

■ 調査対象と回答状況 ■

業種	企業数	回答数	回答率
製造業	29	29	100%
卸売業	16	16	100%
小売業	15	15	100%
サービス業	29	29	100%
建設業	23	23	100%
不動産業	8	8	100%
合計	120	120	100%

※ 国中地区 73社、東部地区 30社、相模原市周辺地区 17社

※ DI (Diffusion Index) とは

各質問事項で「良い(増加)」とした企業割合－「悪い(減少)」とした企業割合の構成比との差(判断DI)による分析です。
例えば、回答が以下のような場合のDIの算出方法は、次のとおりです。

(例)「良い・やや良い」の回答が50%、「変わらず」の回答が30%、「悪い・やや悪い」の回答が20%の場合

DIは50「良い・やや良い」－20「悪い・やや悪い」＝＋30となります。DI値が高いほど景気が良いことを示しています。

業況判断DI

業種	前期	今期実績			来期見通し		
		良い	悪い	DI	良い	悪い	DI
総合	▲6.7	21.2	23.7	▲2.5	23.7	23.7	0.0
製造業	▲13.8	17.3	27.6	▲10.3	27.6	27.6	0.0
卸売業	▲33.3	13.3	40.0	▲26.7	6.7	40.0	▲33.3
小売業	▲26.7	6.7	46.7	▲40.0	33.3	26.6	6.7
サービス業	10.0	37.9	10.3	27.6	27.6	17.2	10.3
建設業	4.3	22.7	13.6	9.1	22.7	13.6	9.1
不動産業	12.5	12.5	12.5	0.0	12.5	25.0	▲12.5

業種別景気天気図

業種	前期	今期	見通し
総合			
製造業			
卸売業			
小売業			
サービス業			
建設業			
不動産業			

※本レポートは、標記時点における情報提供を目的としております。また、掲載資料は、正確性・完全性を保証するものではありません。

31以上	11～30	10～▲10	▲11～▲30	▲30未満

概況

<業況・売上・収益>

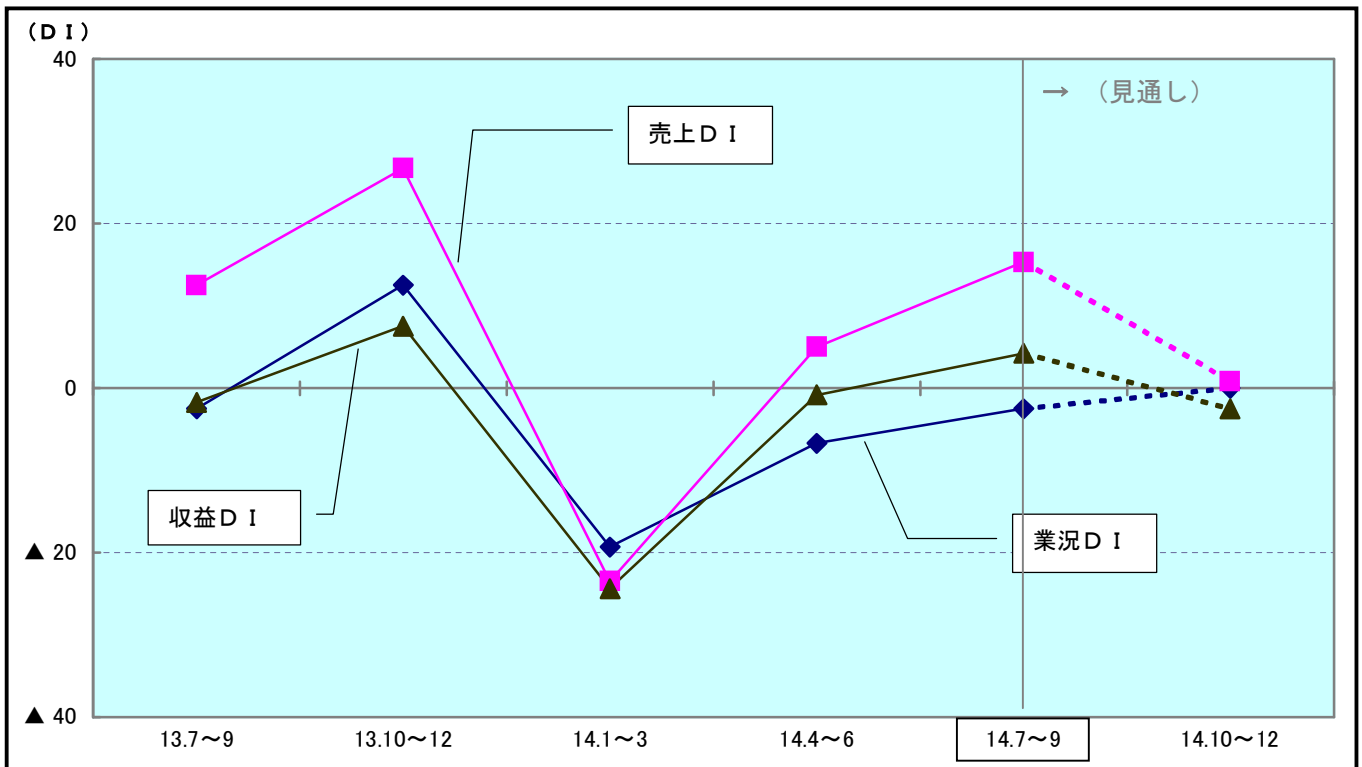
今期（7～9月）の全業種総合の業況判断DI（「良い」－「悪い」）は、前期（4～6月）の▲6.7から4.2ポイント改善の▲2.5となりました（前年同期比横ばい）。業種別にみると、小売業・不動産業で悪化したものの、その他の業種で改善しております。

また、売上DI（「増加」－「減少」）は、製造業・建設業・不動産業で悪化したものの、その他の業種で改善したことから、前期比10.3ポイント改善の15.3となっています（前年同期比2.8ポイント改善）。収益DI（「増加」－「減少」）は、建設業・不動産業で悪化したものの、卸売業・小売業・サービス業で改善したことから前期比5.0ポイント改善の4.2となっています（前年同期比5.9ポイント改善）。

全業種総合の来期見通し（10～12月）は、全体の景況感を表す業況判断DIが0.0と、今期実績比2.5ポイントの改善を見込んでいます。また、売上DIは0.8と、同比14.5ポイントの悪化、収益DIは▲2.5と、同比6.7ポイントの悪化を見込んでおります。業種別の業況判断DIは、卸売業・サービス業・不動産業で悪化を見込んでいるものの、その他の業種で改善を見込んでおります。

■ 業況・売上・収益DIの時系列推移

	13.7～9	13.10～12	14.1～3	14.4～6	14.7～9	14.10～12見通し
業況DI	▲2.5	12.5	▲19.3	▲6.7	▲2.5	0.0
売上DI	12.5	26.7	▲23.5	5.0	15.3	0.8
収益DI	▲1.7	7.5	▲24.4	▲0.8	4.2	▲2.5



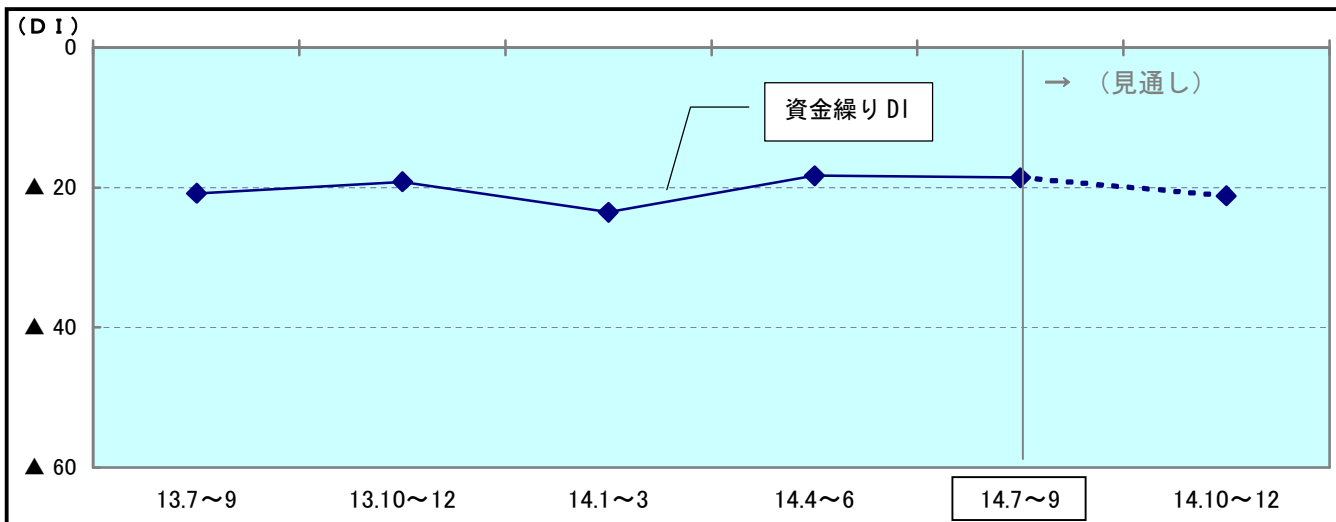
<資金繰り>

資金繰りDI（「楽」－「苦しい」）は▲18.6と、前期比0.3ポイントの悪化となりました（前年同期比2.2ポイント改善）。

また、来期の資金繰りDIは▲21.2と、今期実績比2.6ポイントの悪化を見込んでいます。

■ 資金繰りDIの時系列推移

	13.7~9	13.10~12	14.1~3	14.4~6	14.7~9	14.10~12 見通し
資金繰りDI	▲20.8	▲18.3	▲23.5	▲18.3	▲18.6	▲21.2



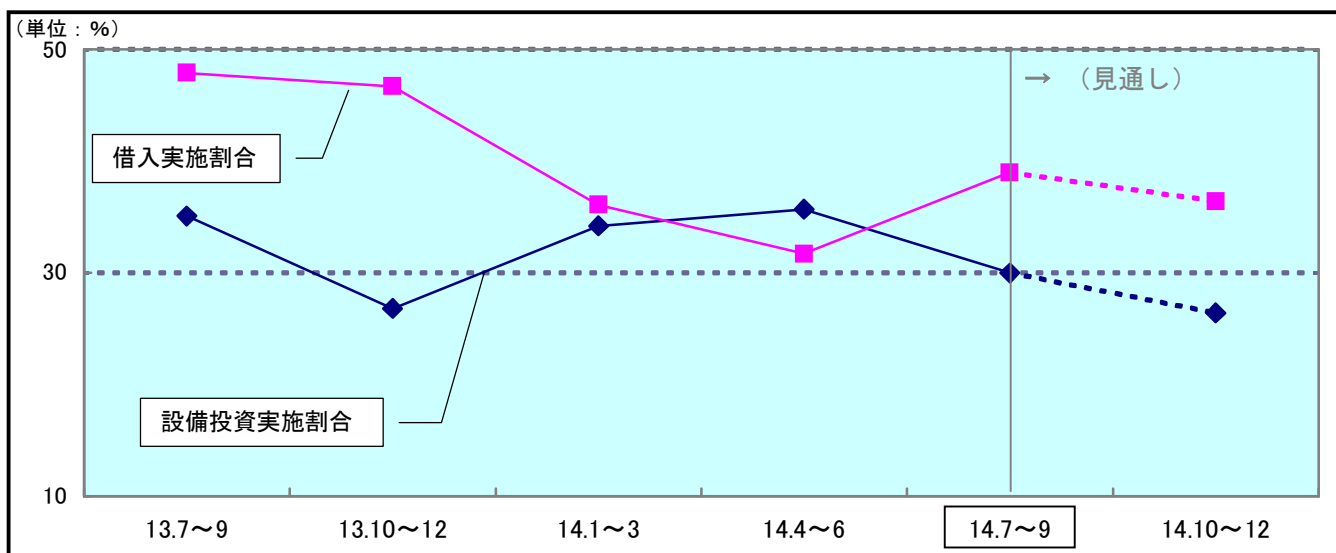
<設備投資・借入動向>

不動産業を除いた設備投資実施企業割合は30.0%と、前期比5.7ポイント低下しております（前年同期比5.1ポイント低下）。また、来期の設備投資実施予定企業割合は26.4%と今期実績比3.6ポイントの低下を見込んでいます。

全業種総合の借入実施企業割合は39.0%と、前期比7.3ポイント上昇しております（前年同期比8.9ポイント低下）。また、来期の借入実施予定企業割合は36.4%と、今期実績比2.6ポイントの低下を見込んでいます。

■ 設備投資・借入実施動向の時系列推移

	13.7~9	13.10~12	14.1~3	14.4~6	14.7~9	14.10~12 見通し
設備投資実施割合	35.1%	26.8%	34.2%	35.7%	30.0%	26.4%
借入実施割合	47.9%	46.7%	36.1%	31.7%	39.0%	36.4%



【製造業】

今期の業況判断D Iは▲10.3と、前期（4～6月）と比べて3.5ポイント改善となりました（前年同期比13.8ポイント改善）。なお、売上D Iは前期比3.5ポイント悪化の3.4、収益D Iは同比増減なく▲3.4となっております。

来期（10～12月）の業況判断D Iは0.0と、今期実績比10.3ポイント改善を見込んでいます。また、売上D Iは同比6.9ポイント改善の10.3、収益D Iは同比3.4ポイント改善の0.0とすべてのD Iで改善を見込んでいます。

今期の資金繰りD Iは、前期比3.5ポイント悪化の▲6.9、来期は今期実績比17.2ポイント悪化の▲24.1を見込んでいます。

■経営上の問題点（）内は前回順位

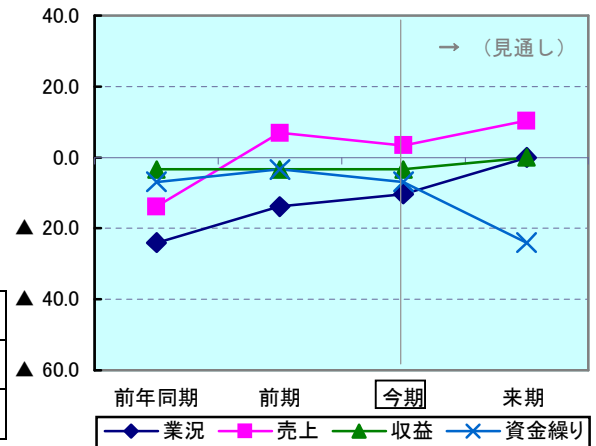
1	売上の停滞・減少(1)	55.2%
2	利幅の縮小(2)	37.9%
3	同業者間の競争激化(3)	31.0%

■当面の重点経営施策

1	販路の拡大(1)	58.6%
	経費の削減(2)	58.6%
3	情報力の強化(3)	31.0%

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲24.1	▲13.8	▲10.3	0.0
売上	▲13.8	6.9	3.4	10.3
収益	▲3.4	▲3.4	▲3.4	0.0
資金繰り	▲6.9	▲3.4	▲6.9	▲24.1



【卸売業】

今期の業況判断D Iは▲26.7と、前期（4～6月）と比べて6.6ポイント改善となりました。（前年同期比33.0ポイント悪化）。また、売上D Iは前期比53.3ポイント改善の40.0、収益D Iは同比46.7ポイント改善の20.0とすべてのD Iで改善となっております。

来期（10～12月）の業況判断D Iは▲33.3と、今期実績比6.6ポイントの悪化を見込んでいます。また、売上D Iは同比40.0ポイント悪化の0.0、収益D Iは同比26.7ポイント悪化の▲6.7とすべてのD Iで悪化を見込んでおります。

今期の資金繰りD Iは、前期比6.7ポイント悪化の▲26.7、来期は今期実績比6.6ポイント悪化の▲33.3を見込んでいます。

■経営上の問題点（）は前回順位

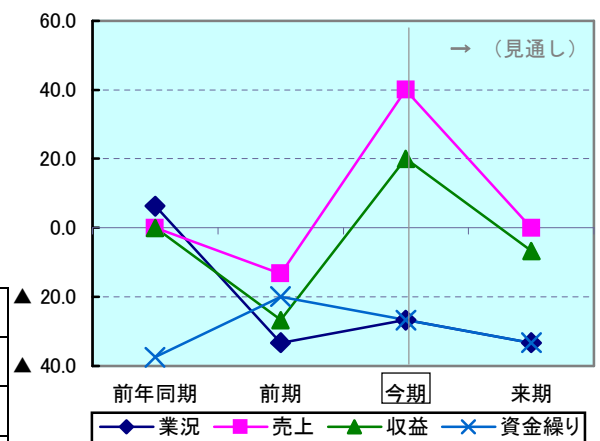
1	利幅の縮小(4)	60.0%
2	売上の停滞・減少(1)	53.3%
	同業者間の競争激化(2)	53.3%

■当面の重点経営施策

1	販路の拡大(1)	86.7%
2	経費の節減(2)	40.0%
3	品揃えの充実(3)	33.3%
	情報力の強化(4)	33.3%

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	6.3	▲33.3	▲26.7	▲33.3
売上	0.0	▲13.3	40.0	0.0
収益	0.0	▲26.7	20.0	▲6.7
資金繰り	▲37.5	▲20.0	▲26.7	▲33.3



【小売業】

今期の業況判断DIは▲40.0と、前期(4~6月)と比べて13.3ポイント悪化となりました。(前年同期比13.3ポイント悪化)。売上DIは同比20.0ポイント改善の▲6.7、収益DIは同比13.3ポイント改善の▲6.7となっております。

来期(10~12月)の業況判断DIは6.7と、今期実績比46.7ポイントの改善を見込んでいます。売上DIは同比横ばいの▲6.7、収益DIも同比横ばいの▲6.7を見込んでいます。

今期の資金繰りDIは、前期比13.4ポイント悪化の▲46.7、来期は今期実績比6.7ポイント改善の▲40.0を見込んでいます。

■経営上の問題点 ()は前回順位

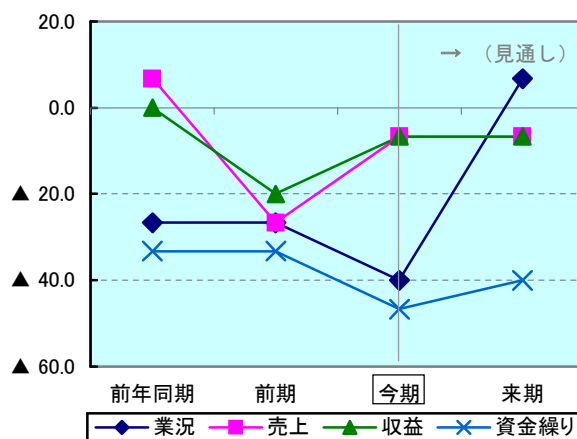
1	売上の停滞・減少(1)	60.0%
2	利幅の縮小(2)	33.3%
3	同業者間の競争激化(4)	26.7%

■当面の重点経営施策

1	経費の節減(1)	53.3%
2	宣伝・広告強化(2)	40.0%
3	売れ筋商品の取扱い(6)	26.7%

■主要DIの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲26.7	▲26.7	▲40.0	6.7
売上	6.7	▲26.7	▲6.7	▲6.7
収益	0.0	▲20.0	▲6.7	▲6.7
資金繰り	▲33.3	▲33.3	▲46.7	▲40.0



【サービス業】

今期の業況判断DIは27.6と、前期(4~6月)と比べて17.6ポイント改善となりました(前年同期比10.4ポイント改善)。売上DIは同比21.6ポイント改善の48.3、収益DIは同比11.0ポイント改善の31.0とすべてのDIで改善となっております。

来期(10~12月)の業況判断DIは10.3と、今期実績比17.3ポイントの悪化を見込んでいます。また、売上DIは同比51.7ポイント悪化の▲3.4、収益DIは同比34.4ポイント悪化の▲3.4とすべてのDIで悪化を見込んでいます。

今期の資金繰りDIは、前期比0.5ポイント悪化の▲17.2となりました。来期は今期実績比3.4ポイント改善の▲13.8を見込んでいます。

■経営上の問題点 ()は前回順位

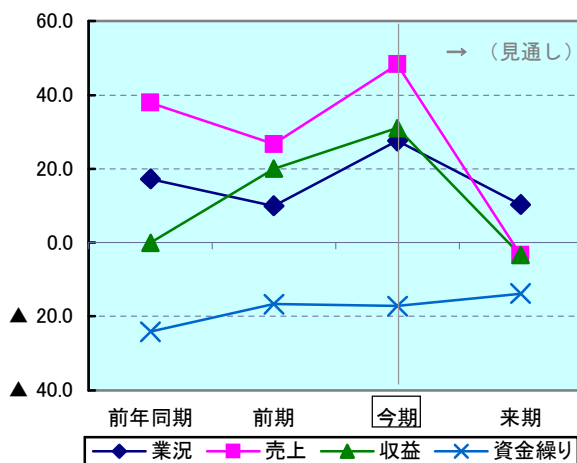
1	売上の停滞・減少(1)	31.0%
	材料価格の上昇(4)	31.0%
3	人手不足(1)	27.6%

■当面の重点経営施策

1	経費の削減(1)	48.3%
2	販路の拡大(2)	44.8%
3	人材の確保(3)	31.0%
	教育訓練強化(3)	31.0%

■主要DIの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	17.2	10.0	27.6	10.3
売上	37.9	26.7	48.3	▲3.4
収益	0.0	20.0	31.0	▲3.4
資金繰り	▲24.1	▲16.7	▲17.2	▲13.8



【建設業】

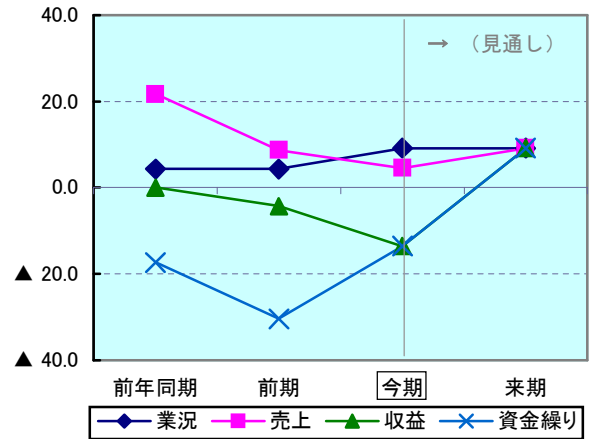
今期の業況判断D Iは9.1と、前期（4～6月）と比べて4.8ポイント改善となりました（前年同期比4.8ポイント改善）。また、売上D Iは前期比4.2ポイント悪化の4.5、収益D Iは同比9.3ポイント悪化の▲13.6となっております。

来期（10～12月）の業況判断D Iは9.1と、今期実績比横ばいを見込んでおります。また、売上D Iは同比4.6ポイント改善の9.1、収益D Iは同比22.7ポイント改善の9.1を見込んでいます。

今期の資金繰りD Iは、前期比16.8ポイント改善の▲13.6、来期は今期実績比22.7ポイント改善の9.1を見込んでいます。

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	4.3	4.3	9.1	9.1
売上	21.7	8.7	4.5	9.1
収益	0.0	▲4.3	▲13.6	9.1
資金繰り	▲17.4	▲30.4	▲13.6	9.1



■経営上の問題点 () は前回順位

1	同業者間の競争の激化(2)	45.5%
2	下請の確保難(6)	31.8%
3	材料価格の上昇(1)	27.3%

■当面の重点経営施策

1	経費の節減(2)	36.4%
	販路の拡大(3)	36.4%
3	技術力の強化(1)	31.8%

【不動産業】

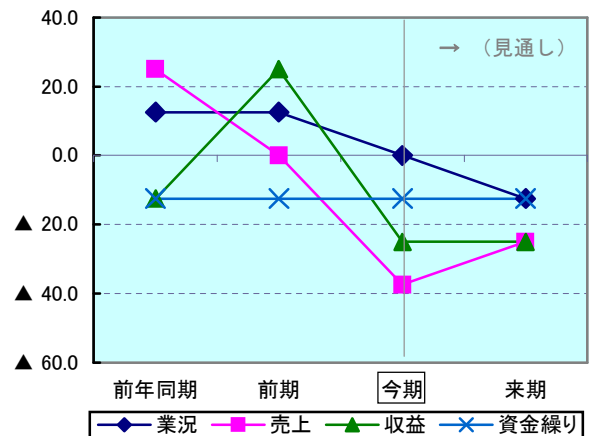
今期の業況判断D Iは0.0と、前期（4～6月）と比べて12.5ポイント悪化となりました（前年同期比12.5ポイント悪化）。売上D Iは前期比37.5ポイント悪化の▲37.5、収益D Iは同比50.0ポイント悪化の▲25.0とすべてのD Iで悪化となっております。

来期（10～12月）の業況判断D Iは▲12.5と、今期実績比12.5ポイント悪化を見込んでおります。売上D Iは同比12.5ポイント改善の▲25.0、収益D Iは同比横ばいの▲25.0を見込んでいます。

今期の資金繰りD Iは、前期比横ばいの▲12.5、来期も今期実績比横ばいの▲12.5を見込んでいます。

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	12.5	12.5	0.0	▲12.5
売上	25.0	0.0	▲37.5	▲25.0
収益	▲12.5	25.0	▲25.0	▲25.0
資金繰り	▲12.5	▲12.5	▲12.5	▲12.5



■経営上の問題点 () は前回順位

1	売上の停滞・減少(1)	62.5%
2	人手不足(3)	50.0%
3	利幅の縮小(1)	37.5%
	商品物件の不足(3)	37.5%

■当面の重点経営施策

1	情報力強化(1)	75.0%
2	経費の節減(2)	37.5%
	販路の拡大(4)	37.5%

<地区別D I の状況>

	国 中 地 区				東 部 地 区				相 模 原 市 周 辺 地 区			
	前年同期	前期	今期	来期	前年同期	前期	今期	来期	前年同期	前期	今期	来期
業況D I	▲8.2	▲11.1	▲5.7	▲8.6	▲3.3	0.0	▲10.0	3.3	23.5	5.9	23.5	11.8
売上D I	4.1	▲5.6	17.1	▲1.4	23.3	26.7	10.0	3.3	29.4	17.6	17.6	0.0
収益D I	▲5.5	▲11.1	2.9	▲4.3	10.0	20.0	6.7	3.3	0.0	17.6	11.8	0.0

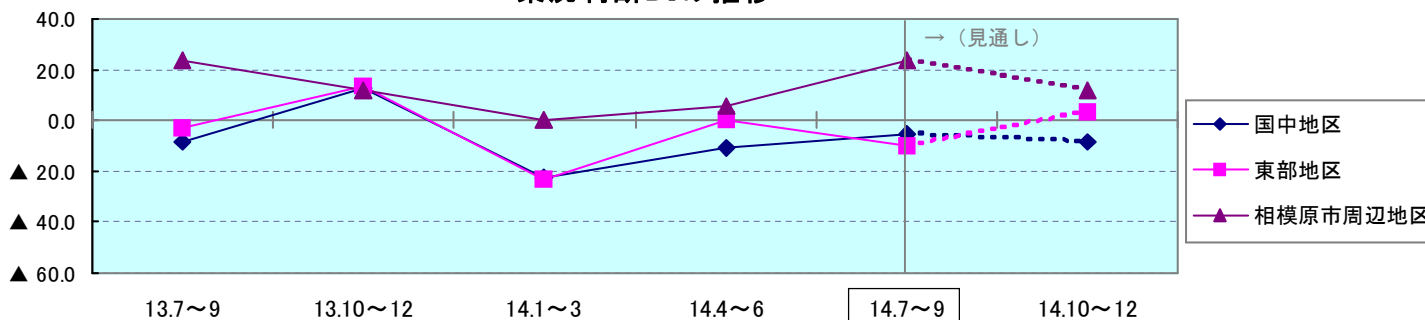
国中地区の状況は、業況判断D Iが▲5.7と、前期（4～6月）の▲11.1から5.4ポイントの改善となりました（前年同期比2.5ポイント改善）。また、売上D Iは前期比22.7ポイント改善の17.1、収益D Iは同比14.0ポイント改善の2.9とすべてのD Iで改善となりました。なお、来期（10～12月）の業況判断D Iは今期実績比2.9ポイント悪化の▲8.6を見込んでいます。

東部地区の状況は、業況判断D Iが▲10.0と、前期の0.0から10.0ポイントの悪化となりました（前年同期比6.7ポイント悪化）。また、売上D Iは前期比16.7ポイント悪化の10.0、収益D Iは同比13.3ポイント悪化の6.7とすべてのD Iで悪化となりました。なお、来期の業況判断D Iは、3.3と今期実績比13.3ポイントの改善を見込んでいます。

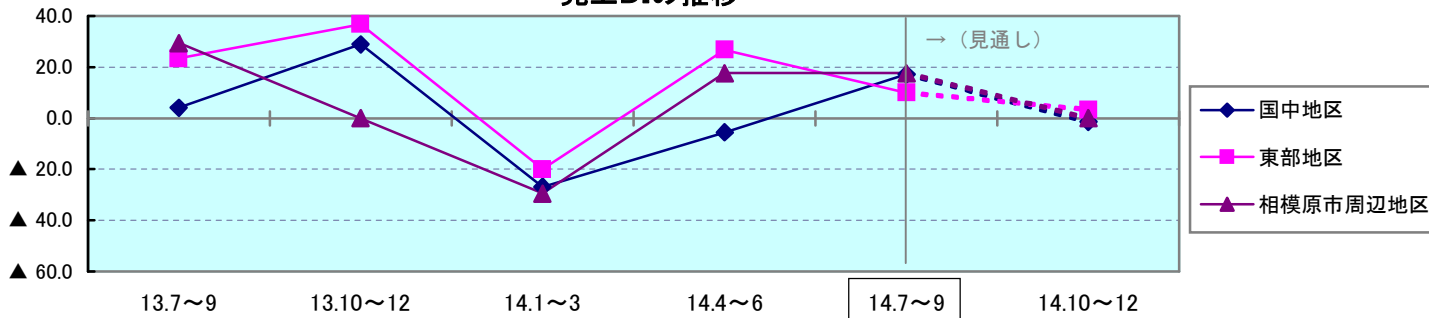
相模原市周辺地区の状況は、業況判断D Iが23.5と、前期の5.9から17.6ポイントの改善となりました（前年同期比横ばい）。また、売上D Iは前期比増減なく17.6、収益D Iは同比5.8ポイント悪化の11.8となりました。なお、来期の業況判断D Iは11.8と今期実績比11.7ポイントの悪化を見込んでいます。

地区別に見た景況感は、国中地区、相模原市周辺地区で改善となりました。なお、来期については東部地区で改善、国中地区、相模原市周辺地区で悪化を見込んでおります。

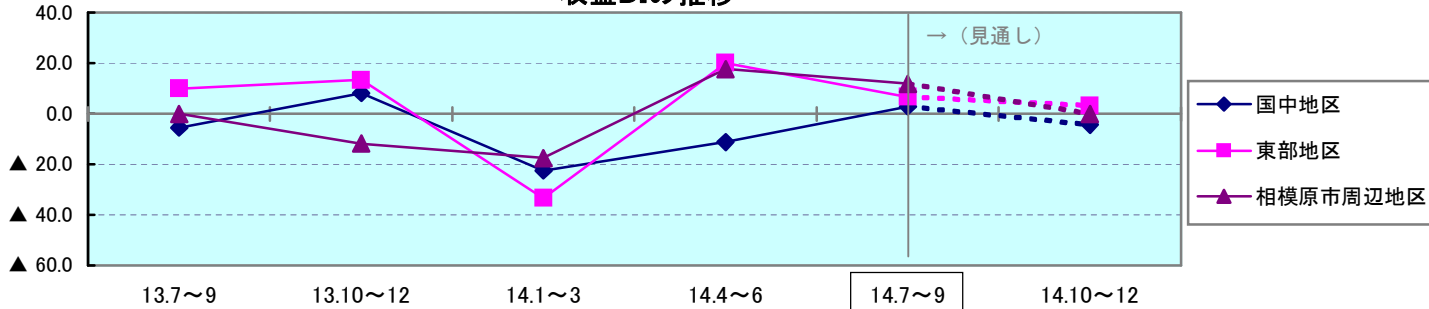
業況判断DIの推移



売上DIの推移



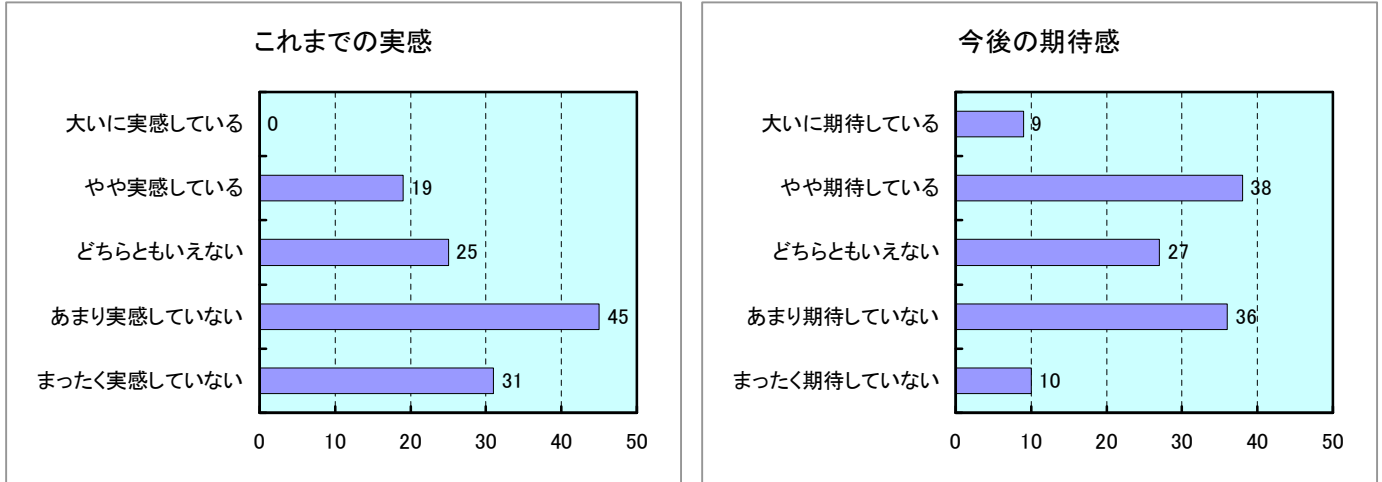
収益DIの推移



特別調査 「中小企業における『成長戦略』への期待について」

◆本年 6 月に政府が打ち出した新たな『成長戦略』では、いわゆるアベノミクス効果について「日本経済はあらゆる面で上昇局面に向かっている」としています。貴社では、アベノミクス効果をどのように捉えていますか。これまでの実感、また、今後の期待感についてお答えください。(回答企業数：120 社)

(単位：社)



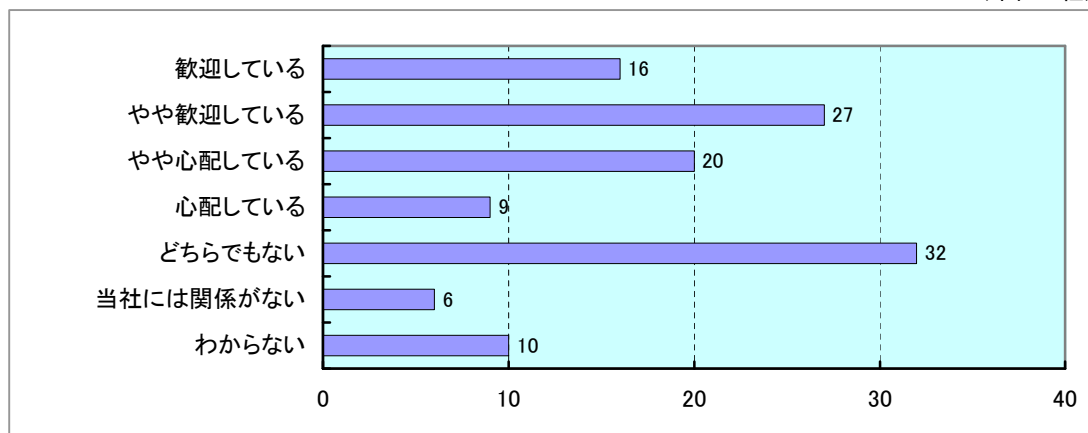
アベノミクスへの現時点での実感については、「あまり実感していない」・「まったく実感していない」との回答が 76 社 (63.8%) と、「大いに実感している」・「やや実感している」との回答の 19 社 (15.9%) を大きく上回る結果となりました。ただ、アベノミクスに対する今後の期待感については「期待している」との回答が 47 社 (39.4%) と、現時点で実感はしていなくても、今後については期待しているとする企業が多くみられました。

業種別に見ると、建設業で「実感している」との回答が多く、サービス業・不動産業で「期待している」との回答が多い一方で、卸売業・小売業では「実感している」、「期待している」ともに回答が少なくなっております。

◆政府が掲げる『成長戦略』では、「法人税率の軽減」と、「代替財源として課税範囲の拡大・見直し」が提唱されています。貴社では法人税制改正案についてどのように捉えていますか。

(回答企業数：120 社)

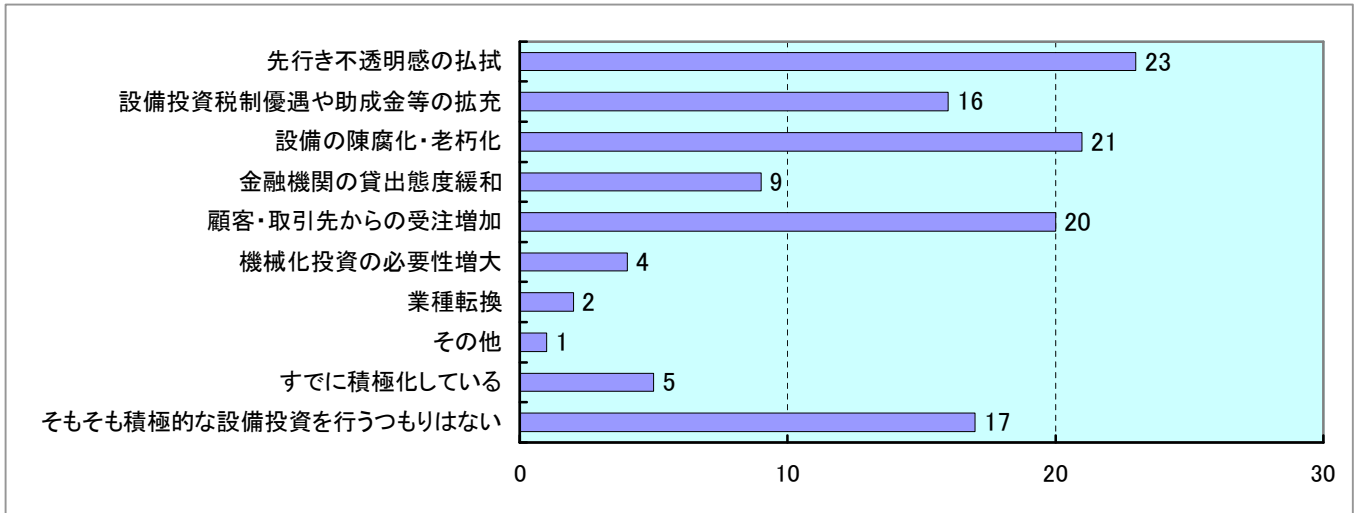
(単位：社)



法人税制改正（法人税率軽減と、課税範囲の拡大・見直し）については、「どちらでもない」との回答が 32 社 (26.6%) と最も多くなりました。なお、「歓迎している」・「やや歓迎している」との回答が 43 社 (35.8%) と、「心配している」・「やや心配している」との回答の 29 社 (24.1%) を上回る結果となりました。

◆政府はこれまで、『成長戦略』の中で企業の設備投資を促しています。こうしたなか、貴社では、どのような状況になれば積極的な設備投資を開始しますか。（回答企業数：118社）

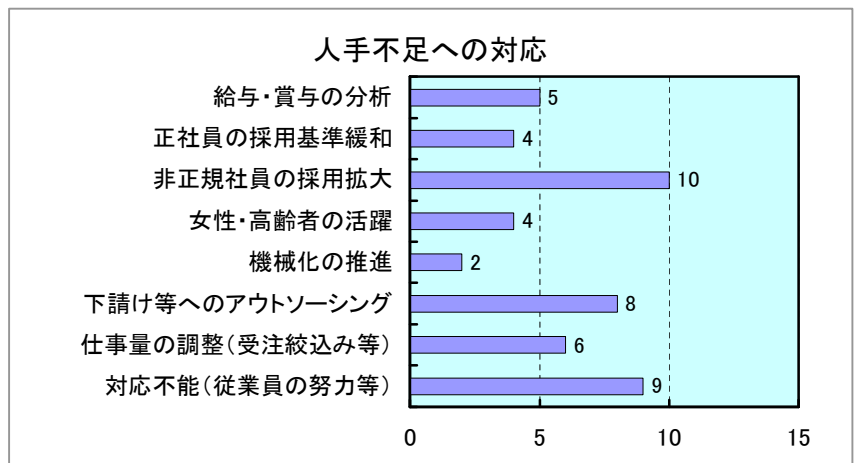
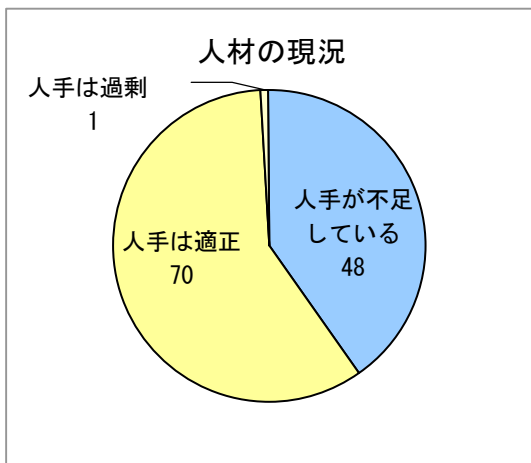
（単位：社）



積極的な設備投資を開始する条件としては、「先行き不透明感の払拭」との回答が23社（19.4%）と最も多く、「設備の陳腐化・老朽化」が21社（17.7%）、「顧客・取引先からの受注増加」が20社（16.9%）続いております。また、「すでに積極化している」は5社（4.2%）、「積極的な設備投資はしない」は17社（14.4%）となりました。

◆一部の地域や業種を中心に人手不足が深刻化していますが、貴社における人材の現況はどうなっていますか。人手不足の方は、人手不足にどう対応しているかについて最も当てはまるものをお答えください。（回答企業数：119社）

（単位：社）

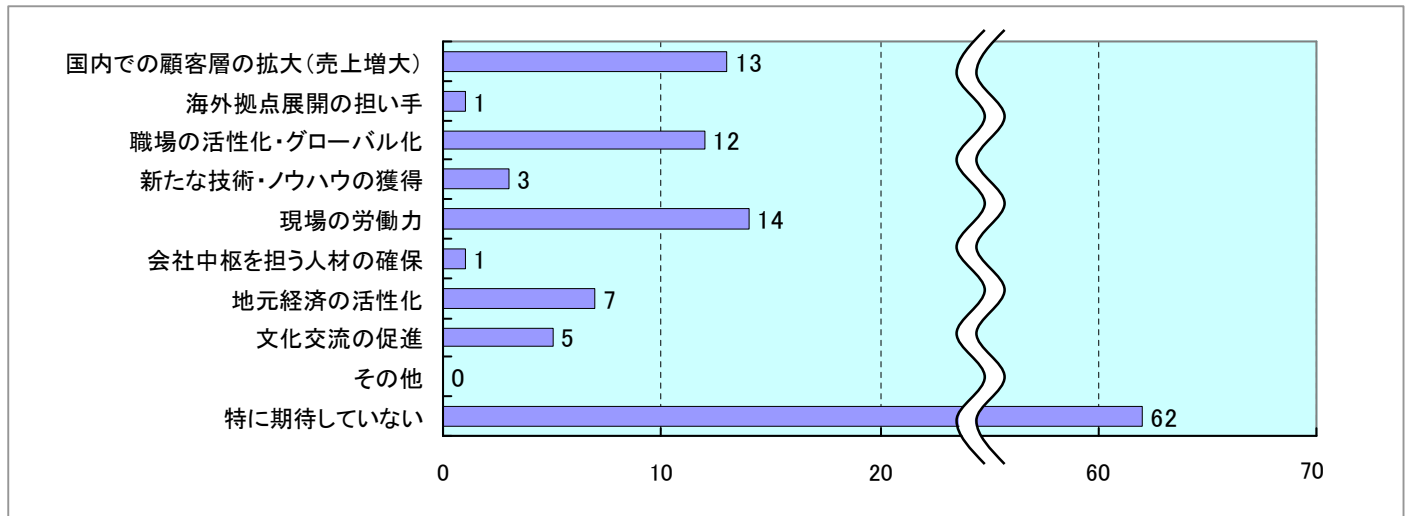


人材の現況については、「人手が不足している」との回答が48社（40.3%）と、全体の4割を占めております。一方で、「人手は適正」との回答が70社（58.8%）となっており、「人手は過剰」との回答は1社（0.8%）にとどまっております。また、業種別に見るとサービス業・建設業で半数以上の企業が「人手が不足している」と回答しております。

人手不足への対応については、サービス業で「非正規社員の採用拡大」、建設業で「下請け等へのアウトソーシング」との回答が特に多くなっております。また、「対応不能（従業員の努力等）」との回答も9社（7.5%）と人手不足への対応に苦慮している企業が少なくないことがうかがえる結果となりました。

◆政府の『成長戦略』では、訪日外国人の増加や外国人技能実習制度の見直しなど、外国人との関わりを増やすような政策が提唱されています。貴社では、外国人との関わりの増加にどのような期待感を持っていますか。（回答企業数：118社）

（単位：社）



訪日外国人増加や外国人技能実習制度の見直しなど、外国人との関わりの増加に対する期待感については、「期待している」との回答が56社（47.4%）、「特に関心がない」との回答が62社（52.5%）となりました。

期待の内訳としては、「現場の労働力」との回答が14社（11.8%）と最も多く、以下「国内顧客層の拡大（売上増大）」が13社（11.0%）、「職場の活性化・グローバル化」が12社（10.1%）と続いております。業種別に見ると、サービス業・建設業で「期待している」との回答が多く、サービス業では「国内顧客層の拡大（売上増大）」、建設業では「現場の労働力」に特に大きな期待を寄せております。

調査員のコメント

製造業

- 売上は順調に推移しているものの、原材料価格の高騰により利益率が伸び悩んでいる。今後は、取引先開拓、情報力の強化、自社製品の開発等に努めたい。（出版・印刷・同関連産業）
- 原材料の価格は上昇しているが、売上、収益ともにやや増加しており、事業は安定している。政府の成長戦略による景気の底上げに期待しており、今後は、設備投資も視野に入れ、更なる売上、収益向上を図っていく方針である。（精密機械器具製造業）

卸売業

- 山梨県内の市場規模は、人口の減少等により、今後縮小されることが懸念されるため、県外への営業拡大を視野に入れ、業務に取り組んでいる。（化学製品卸売業）
- 売上は前期に比べて増加しており、年末にかけてさらに増加する見込み。同業者間の競争も激しくなっており、商品の充実に注力している。政府の成長戦略に期待する一方で、2015年10月の消費税増税を心配している。（その他の卸売業）

小 売 業

- 仕入価格の値上げ、売上減少傾向と厳しい状況にあるが、地元の固定客を確保しつつ、着実に売上を伸ばしていきたい。(医療品・化粧品小売業)
- 今期決算において、消費税増税前の駆け込み需要の影響から前年比増収となった。増税後も影響は少なく、例年並みの売上を維持している。(自動車・自転車小売業)

サービス業

- 売上高が減少傾向にあり、今後もアベノミクス効果には期待感が薄い。今後の施策として、人材育成により技術力の向上を図ることで、他社との競争に勝ち抜く力をつけたい。
(情報サービス・調査・広告業)

建 設 業

- 人手不足により、受注はあるものの計画的に仕事をこなすことが難しく、売上が伸び悩んでいる。
(総合工事業)
- 原材料・資材の価格上昇により利幅が縮小している。下請の確保が難しい状況にある。(総合工事業)

不 動 産 業

- 業況は横ばいで推移している。販路拡大、経費削減等を行い利益確保に努めているところであるが、同業者との競争も激しい。景気が回復していると新聞報道等で目にするが、なかなか実感できないのが現状である。(建売業・土地売買業)
- 分譲地販売は順調に推移している。新たな分譲地販売を計画しているが、依然として商品不動産の不足が続いている。(建売業・土地売買業)

編 集 後 記

このたびの中小企業景気動向調査におかれましては、皆様にはお忙しいなか、ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

今回の調査では、業況判断DIが前期比4.2ポイントの改善の▲2.5となりました。来期の見通しについては、今期実績比2.5ポイント改善の0.0ポイントを見込んでおります。

また、今回の特別調査では「中小企業における『成長戦略』への期待について」調査しました。調査にご協力いただいた企業の多くは、アベノミクス効果の実感が薄いながらも、今後の効果には期待をしていることがわかりました。調査員のコメントからも大都市の一部の企業だけでなく、地方の中小企業にも影響するような政策を政府に期待していることがうかがえます。

このような状況下、当金庫といたしましても、中小企業の皆様に積極的に支援していく所存ですので、引続き当金庫をご利用いただきますようお願いいたします。